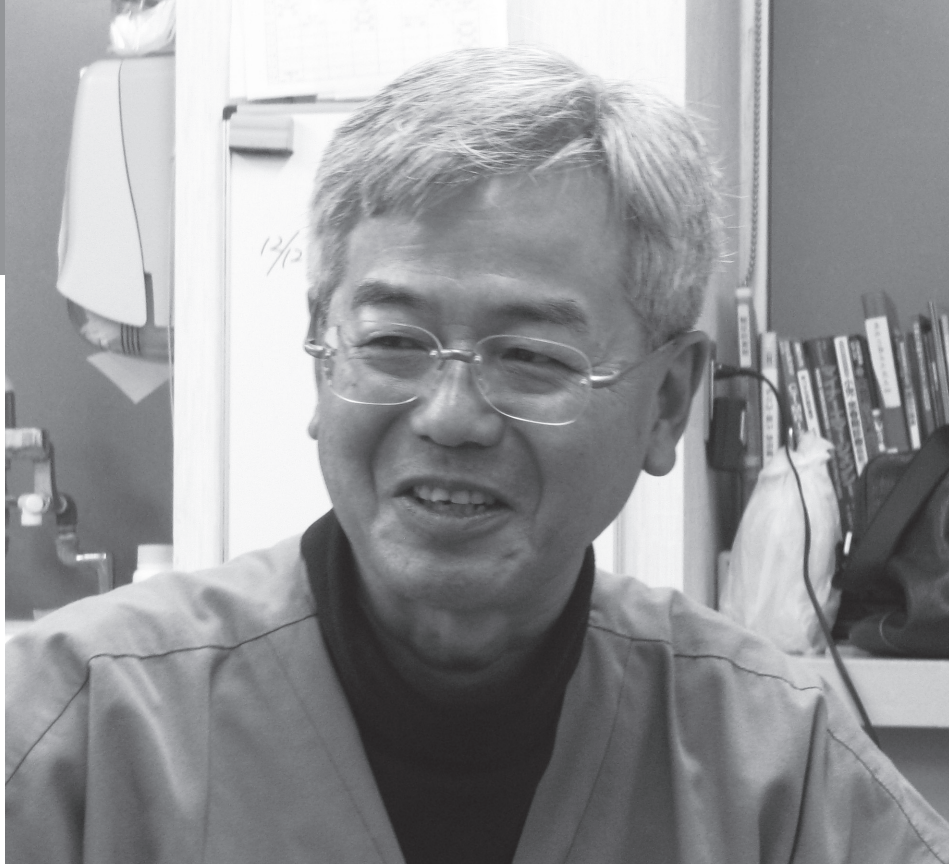


INTERVIEW

田子診療所 所長
笹井 平先生



【プロフィール】 笹井 平先生 昭和54年鳥取大学医学部卒業。国立大阪病院(現 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター)外科系にて研修。後期研修後、大阪大学大学院病理学教室、微生物学研究所にて4年間癌遺伝子の研究に励み、学位を取得。3年間のイギリス留学を経て、日本たばこ産業生命科学研究所へ。平成19年より地域医療振興協会再研修プログラムにて研修、平成20年静岡県の田子診療所に赴任、現在に至る。

今、第二の医師人生を、 地域の第一線で。

聞き手：山田隆司 地域医療研究所所長

外科医として寝食を忘れて取り組んだ20代

山田隆司(聞き手) 今日は田子診療所に笹井 平先生を訪ねました。笹井先生は地域医療振興協会の再研修プログラムを修了し、ここに赴任されました。こちらに来られて何年になりますか？

笹井 平 来年の3月で丸6年になります。

山田 もうそんなになりますか？ 先生がここで元気に活躍されている姿をお見受けして嬉しい限りです。今日はまず、先生の経歴からご紹介いた

けますか。

笹井 私は昭和54年に鳥取大学医学部を卒業しました。郷里が大阪だったので大阪で研修しようと考え、また当時はストレート研修が主流でしたが、ローテートができる病院を探して国立大阪病院(現 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター)の外科系の研修に進みました。

山田 最初からローテート研修が希望だったのですか。

笹井 はい。医局といったヒエラルキーに縛られるのが苦手で、自由にやりたいと思いました。国立大阪病院は手術件数も多いし、目を輝かせている立派な先生が大勢いらっしゃると感じたのも選択の理由です。2年間で一般外科と泌尿器科、麻酔科を回りました。それから後期研修も外科系へ行きたいと考え、またそこには大腸癌を専門的に診ているセンターのようなところがあったので、さらに3年間そちらで大腸癌を切りまくるという毎日でした。

山田 そこは大腸外科だったのですか。

笹井 消化器外科ですね。ところが、国立大阪病院は一方で消化器内科も非常に強くて、内視鏡の草分けのような人たちがいましたので、壁を越えて内科でも勉強をさせていただきました。外科の合間を縫っては消化器内科にもぐり込んで、内視鏡をやったりしていたので、「おまえは外科なのに何で内視鏡にいるんだ」とよく言われましたね。当

時は原始的な胃カメラで、胃カメラの先端にフィルムを入れて、ガチャンガチャンとシャッターを切るものでしたが(笑)。大腸癌も増えてきた時期で、大腸癌に興味があったので、大腸ファイバー1本を担いで、あちこちの病院へ出張にも行きました。寝食を忘れて消化器一般のことをやるという毎日でしたね。

山田 私もちょうどそのころ、消化器系を中心に勉強していましたので胃や腸の内視鏡をやっていましたね。初期の胃カメラの話は懐かしいですね(笑)。

笹井 消化器外科では自分がどんどんいろいろな手術をできるようになるのがすごく楽しくて、1年目でこれだけ大きな手術ができたとか、大腸ファイバーを何例できるようになったとか、何分で入れられるようになったとか、切磋琢磨しながらやっていて、毎日、寝るのも惜しい、早く明日が来ないかなと思っていましたね。

癌を治すという夢を追いかけて

山田 3年間の外科研修を終えられてからはどうしたのですか。

笹井 研究もずっと続けていたので、もう少し基礎的な勉強も必要だという考えもありましたし、ちょうど大腸癌の原因が突然変異で癌遺伝子になるということが解明された年だったのですね。その癌遺伝子が分かたらみんなの癌が治るのではないかというイメージを持ち、大阪大学の病理学教室でそういう研究をしている人がいたのでそこへ行くことにしました。29歳で結婚したばかりでしたが、大学院の門を叩きました。

ところが、いざ病理学教室に入ると同期が5人いて、5人で分けるだけの研究テーマがないと言われて、今度は世界的に有名なノーベル賞クラスの先生が米国から阪大の微生物学研究所に帰ってくるからそこで学位を取ってこいという話になって、そこからまた出されたのですね。

山田 病理に数年いてからですか。

笹井 いえ、1年目です。話が違うじゃないかと思いましたが、とりあえず一度お会いしようと思いましたが、初めて化学発癌で、突然変異で癌が起こるということを証明された方で、お会いしてみるとおおらかな、光るような優秀な方だったので、惹かれて、そこで4年間お世話になることにしました。

山田 教室員という形ですか。

笹井 大学院生です。

山田 では授業料を払って？

笹井 はい、だから結婚した当時は「あなた、また学生に戻るの？」と言われましたが。

そこでは、いろいろな癌からDNAを抽出して細胞に取り込ませて、癌化するもの、新しい遺伝子を見つけていくという地味で地道な研究を4年間やって、学位を取りました。そこで「そろそろ